

# ひむか支部 第12回定時総会 採択議案

## 第1号議案 2024年度(第11期)の活動を 振り返って

### 1、はじめに

コロナ禍が収束したかと安堵したのも束の間、ゼロゼロ融資の返済開始による負担増額による企業倒産の増加、そして未だに収束しないロシア・ウクライナ紛争、イスラエル・ガザ戦争、その煽りはアメーバーのごとく日本にも影響を与えています。円安によるインバウンド事業は目覚ましい上昇気流ではありますが、その反面、人材不足、賃上げ、物価高騰による消費マインドの減少も重なり、今までに経験したことのない経営環境に戸惑いを隠せない1年でした。

ひむか支部の会員構成比率が高いのは第一次産業です。物価高騰のあおりを受けてはいるものの、経営指針にもとづき自助努力により強靱な農場、牧場経営をされている会員が増えてきているのは、同友会での学びや実践の賜物です。同友会の存在意義を示していると言っても過言ではありません。

ひむか支部地域の会員企業が増えることで、支部地域の課題がもっと明確になり、その課題に寄り添った運営を会員が一丸となり、会員企業がより一層発展していくことを求めてやみません。

### 2、「強くなる」を振り返って

#### (1) 経営指針の成文化と実践の推進、互いの経営体験の交流の場の充実

指針経営について学ぶ場として、「知り合う会」を活用し、何のために経営指針を成文化するのかを改めて問い経営理念の大切さ、経営計画書を作成し、実践することの大切さを共有しました。経営指針を実践するお互いの経営指針の交流の場として例会を年5回開催しました。7月と8月に開催した例会は、第52回青年経営者全国交流会(以下、「青全交」)のプレ報告として行い、他県会員の報告を支部例会で聴けるという支部として大きな学びを得ることができました。例会への参加率を40%以上、各回ゲスト3名以上を目標としていましたが、会員の参加率28.4%、ゲストの平均参加は3名でした。

ひむか支部オブザイヤーについて、評価項目、選考委員の選出、表彰各賞について協議をしてきましたが、具体的な動きまでは生み出せませんでした。

#### (2) 地域に若者を残す活動の推進

宮崎北高校1年生との地域探求連携事業では、2023年度に引き続き、ひむか支部の会員企業8社と高鍋信用金庫が参加。地元中小企業の魅力を発信する良い機会となり、学校との連携から若者に地域の中小企業のことを知ってもらう機会になりました。

ダイバーシティについて具体的に学び合う場として、宮崎県立るびなす支援学校への訪問活動を計画していましたが、開催には至りませんでした。また、児湯財団との個人レベルでの交流はあったものの支部として連携には至っていません。2025年度は、具体的に何をどう実行するか計画し取り組んでいきましょう。

#### (3) 全国へ、県全体へ学びの視野を広げます

青全交が2024年9月に本県で開催され、全国の経営者と交流し多くの刺激を受けました。18名の会員参加目標を立てましたが、会員14名、会員企業2名の16名の参加であと一歩の結果となりました。しかし、他支部の例会や全国行事にも参加する人が増え、全国、県全体へ学びの視野を広げる良い機会となりました。

2月に開催された第33回みやざき中小企業フォーラムには、会員13名、ゲスト3名の16名を参加目標としましたが、会員12名、ゲスト2名の14名の参加でした。第34回フォーラムはひむか支部から実行委員長を輩出し、ひむかの地での開催です。例会への参加者が増えるように例会をていねいにつくっていきましょう。

### 3、「増やす」を振り返って

第11期では、仲間を増やすことについては期首会員数33名スタートから期末会員数40名をめざしました。同友会で一緒に学び、実践する仲間が1名増えましたが、コロナ後の影響やゼロゼロ融資返済に伴い退会者が5名と期首より4名減の29名となりました。

支部活動に関わる人が増えることで会活動の質向上と参加規模の拡大を図ってきましたが、年間ゲスト数は昨年24名に対し14名(58.3%)でした。

支部創設以来の11年間、支部会員が30名台前半で推移しており、2024年度は30名を切るまでに会員数が減り、同友会運動を地域に広げるという理想には及ばない現状です。ひむか支部の会員さんの課題に寄り添った例会や学習会づくりをめざしましたが、会員交流カード等の分析データにもとづき、もう少し踏み込んだテーマの検討が必要です。

### (1) YouTubeチャンネルの活用による「例会オンライン」開設で広報・発信を強化します。

SNS発信は適宜行いましたが、会員からの反応はありませんでした。各広報担当の実績から見ると、対会員、対会外とも発信の成果を得るまでには至っていません。

### (2) 会員が参加したくなる活動の展開

交流会2回、地区ごとのランチ会などの小グループ活動の位置づけは定着しつつあります。学習会では、財務学習会を企画し、入会へのきっかけとして一定の成果を得ることができました。会員交流カードや社員アンケートを十分に反映できず、自社経営に関する会員の悩みや支部運営に対するニーズ、興味を得ることができませんでした。2025年度も引き続き、会員交流カードの取り組みに注力が望まれます。会員交流カードの入力をお願いします。

### (3) 地域内での会員組織率を高めます。

既存会員の参加率向上は会員交流カード回収が進まない中、会員のニーズにあった活動ができていないか試行錯誤が続きますが、2024年度入会した会員が今活躍しているのはひむか支部にとって、とても力強いことです。

期末会員数40名をめざし下半期はじめには36名に下方修正をしたものの1名入会(期首会員比3.0%)、5名退会(期首会員比15.2%)で支部会員数は29名となりました。

1月例会では、理事会との共催での「知る会拡大バージョン」として、会員が少ない西都市での開催を試みました。理事をはじめ他支部の会員さんの協力もあり、ひむか支部としては最多の45名(ゲスト7名)の参加でした。しかし、西都商工会議所会や交流団体への例会案内が充分に取り組みできていませんでした。西都地区の仲間を増やす取組みができたので、2025年度も引き続き西都市での例会を開催していきましょう。

## 4. 「つなぐ」を振り返って

2024年度は、横のつながり(会員企業同士、他団体、産学金)と縦のつながり(各企業の継続発展、同友会づくり)を築いてきました。

### (1) 産学金及び他団体との連携で地域課題への取り組みを強化します。

金融機関や他団体に対して、行事の案内はできたものの、共通の関心事や課題を交流するまでは至りませんでした。高鍋信用金庫さんとの連携についても、訪問は行いましたが具体的な動きまではうみだせませんでした。

会員同士の連携として、6月と10月に会員からの要望が多かった財務学習会を開催しました。3名のゲストが参加、1名の入会につながりました。

### (2) 人材育成の仕組み化する「会員キャリアパス」で持続可能な組織経営に取り組みます。

キャリアパス制度を導入して同友会の学びと支部活動

の道しるべとして活用する目的でしたが、会員に積極的に運営に関わってもらうまでには至りませんでした。

新会員オリエンテーションは内容を見直し、動画で掲載するなど楽しい取り組みができました。支部で定めた会員がメンターとして2年間は新会員をフォローする体制はでき、コミュニケーションも取れるようになりました。

### (3) 10年後のビジョンを描きます。

他の運営に追われ、手つかずの状態になってしまったのは、幹事会の責任です。来期は、10年ビジョンを提起できるよう協議を重ねていきましょう。

## 2024年度(第11期)活動の記録

### 1. 支部会員数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月初会員数	33	33	33	33	31	32
入会数	0	0	0	0	1	0
退会数	0	0	0	2	0	0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
32	32	31	31	31	30	
0	0	0	0	0	0	1
0	1	0	0	1	1	5

\* 3月末会員数29名

### 2. 例会等の開催

#### 第11回定時総会

5月24日(金) ホテル四季亭で 14名  
内訳：ひむか13名(39.4%) + 他支部1名

#### 6月財務学習会

6月25日(火) 新富町総合交流センターきらりて 12名  
「早い話、決算書なんてこれだけ! ~ 2時間で分かる決算書のツボ~」

I Gブレーン宮崎(株) 代表取締役 直野祐樹氏  
(県北支部)

内訳：ひむか8名(24.2%) + ゲスト3名 + 講師1名

#### 7月例会(青全交第3分科会プレ報告)

7月23日(火) 高鍋町商工会議所で 28名  
「廃業寸前の家業と自分自身の変革~売上が10倍になった6年とこれから~」

(有)音地自動車商会 代表取締役 音地利亮氏  
(石川同友会)

内訳：ひむか13名(39.4%) + 他支部9名 + ゲスト3名 + 他県同友会3名

#### 8月例会(青全交第13分科会プレ報告)

8月23日(金) 高鍋町商工会議所 + Zoom会議で 16名  
「最後まで生き残り続ける一社への道~ 100年企業を見据え、製造への原点復帰~」

大阪光学工業(株) 代表取締役 川口健次氏  
(大阪同友会)

内訳：ひむか5名(15.6%) + 他支部5名 + 県外6名

### 10月交流会

10月4日(金) 若すしで 7名

「企業変革支援プログラムVer. 2を活用してみよう」

(有)日高設備工業 代表取締役 日高憲一郎氏

### 10月財務学習会

10月22日(火) 高鍋町中央公民館で 9名

「早い話、決算書なんてこれだけ！～2時間で分かる  
決算書のツボ～」

I Gブレーン宮崎(株) 代表取締役 直野祐樹氏  
(県北支部)

内訳：ひむか7名(21.9%) + ゲスト1名 + 講師1名

### 11月望年会

11月25日(月) 紙風船で 8名

内訳：ひむか8名(25.0%)

### 12月例会

12月11日(水) 新富町商工会で 11名

「命が循環する牧場～人も牛も幸せな牧場をめざして～」

(株)松浦牧場 代表取締役 松浦千博氏

内訳：ひむか9名(29.0%) + ゲスト2名

### 1月例会 (同友会を知る会拡大バージョン)

1月21日(火) 西都商工会議所で 45名

「挑戦の軌跡～同友会の活用で自社経営をよりよく変  
える～」

(株)南九州みかど 代表取締役 迎敦雄氏  
(宮崎北支部)

内訳：ひむか9名(29.0%) + 他支部27名 + ゲスト7名  
+ 会員企業2名

### 3月例会

3月10日(月) 高鍋町商工会議所で 11名

「最小の人数で最大限の成果をあげるには」

(株)中岡工業 代表取締役 中岡登志氏

内訳：ひむか8名(26.7%) + ゲスト2名 + 会員企業1  
名

### 学校との連携活動

7月24日(水) 宮崎北高校で 27社29名

探究活動「地元企業研修」オリエンテーション

内訳：ひむか支部8社9名 + 宮崎北支部19社20名

12月11日(水) 宮崎北高校で 27社29名

探究活動「地元企業研修」発表会

内訳：ひむか支部6社7名 + 宮崎北支部20社21名 + 高  
鍋信用金庫1社1名

### 3. 幹事会の記録

第1回 5月24日(金) ホテル四季亭で  
出席：7名(87.5%)

第2回 6月3日(月) Zoom会議で  
出席：6名(75.0%)

第3回 7月1日(月) 新富町総合交流センターきらりで  
出席：6名(75.0%)

第4回 8月5日(月) Zoom会議で  
出席：5名(62.5%)

第5回 9月2日(月) Zoom会議で  
出席：4名(50.0%)

第6回 10月7日(月) Zoom会議で  
出席：6名(75.0%)

第7回 11月6日(木) Zoom会議で  
出席：4名(50.0%)

第8回 12月2日(月) Zoom会議で  
出席：6名(75.0%)

第9回 1月10日(金) 新富町総合交流センターきらりで  
出席：5名(62.5%) + 理事2名

第10回 2月3日(月) Zoom会議で  
出席：6名(75.0%)

第11回 3月3日(月) Zoom会議で  
出席：7名(87.5%)

第12回 4月7日(月) Zoom会議で  
出席：7名(87.5%)

第12回 5月9日(金) Zoom会議で  
出席：4名(50.0%)

#### 第2号議案

## 2025年度(第12期)の活動方針 と活動計画

#### 活動スローガン

自社経営と同友会活動の不離一体で  
会社を良くしていこう。

### 1. はじめに

人口減少社会は、地域の10年後、20年後を不安に思わせる脅威です。私たちは中小企業家として何が出来るか、どうあるべきかを常に学び、実践し持続可能な地域実現につなげていかねばなりません。同友会には設立当初から「天は自ら助くるものを助く」という言葉があります。まずは、自主的に活動に取り組むことから始まります。例会や県行事に参加す

ることで一つでも学びを持ち帰り、明日への事業発展につなげていきましょう。皆で未来を語りあい、切磋琢磨し、同友会のめざす「21世紀型企業」(下記参照)を実現していきましょう。

2025年度は、第34回みやざき中小企業経営フォーラムをひむか支部の地で開催します。現在、ひむか支部地域内における同友会の知名度は高いとは言えませんが、フォーラムをきっかけに同友会運動を地域の企業家に知ってもらい、同じ志を持った仲間を増やし、まずは域内組織率5%(会員52名)を目標に同友会運動を進めます。また、フォーラムを成功に導くことで達成感や会員の団結力を示すこともできるでしょう。実行委員長を中心に、ひむか支部として一丸となってフォーラムに取り組みしましょう。

以下に支部方針の詳細を記します。支部創立10周年を過ぎましたが、会勢が増したとは言え難い状況です。今一度、基本に立ち戻り同友会の基本的な活動(例会での学び・指針経営の実践・会員同志の本音の交流等)に注力していきます。

2024年度同様に支部活動を「強くなる」「増やす」「つなぐ」の3つに分け、それぞれ幹事を中心にチーム編成を行い活動を進めていきます。方針の実現には支部会員全員の協力が不可欠です。熱く、かつ、笑顔があふれるひむか支部をつくっていきましょう。

#### ※21世紀型中小企業型づくり

第1に、自社の存在意義を改めて問いなおすとともに、社会的使命感に燃えて事業活動を行い、国民と地域社会からの信頼や期待に高い水準で応えられる企業。

第2に、社員の創意や自主性が十分に発揮できる社風と理念が確立され、労使が共に育ちあい、高まりあいの意欲に燃え、活力に満ちた豊かな人間集団としての企業。(1993年中同協第25回総会)

## 2. 「強くなる」

いかなる環境変化にも対応できる強靱な企業(21世紀型中小企業)づくりをめざす私たちは同友会の学びを実践して結果を残し、会内外から一目置かれる存在となります。

### (1) 経営指針の成文化と実践の推進、互いの経営体験の交流の場の充実

会歴の浅い会員に指針経営の重要性を伝えるため、知り合う会等で指針経営について学ぶ場づくりをしています。何のために経営指針を成文化するのかを改めて問いかけ共有します。

指針を実践するお互いの経営体験の交流の場として、支部での最大の学びの場である支部例会を年4回開催します。テーマは、「企業変革支援プログラムVer. 2」に記載された6つの項目から例会のテーマを決めていきます。

また、会員が何らかの役割(報告者、座長、室長、グ

ループ長)を持って例会づくりに参画することをめざします。自分たちが当事者となることでより深い学びを得る機会になります。

例会への会員参加率40%以上、各回ゲスト3名以上を目標とします。

### (2) 地域に若者を残す活動の推進

宮崎北高校1年生との地域探求連携事業、もしくは同様の事業への参加を継続していきます。地元中小企業の魅力を発信する機会づくりに努めます。

共同求人活動に参加する企業が1社でも増加すること(2024年度0社)をめざし、支部会員への広報に努めます。

### (3) 全国へ、県全体へ学びの視野を広げます

オンラインでの開催もあり、全国行事や中同協行事への参加のハードルはかなり低くなりました。しかし、参加は一部に限られており、会員への拡がりに欠けます。せっかく得た学びを会内で共有できるよう交流会等で報告や意見交換を行っていきます。

## 3. 「増やす」

同友会で一緒に学び実践する仲間を増やすことで地域の活性化に貢献します。また、関わる人が増えることで会活動の質向上と幅の拡大を図ります。

### (1) 会員が参加しなくなる活動の展開

まずは会活動の楽しさや充実感を感じてもらえるようにします。地区活動や会員間の交流を深めること自体を目的とする交流会を開催する等、気軽に参加できる雰囲気のある場を設けることで参加者を増やします。

会員との接点を活性化し双方向の情報交換を充実させる小グループ活動を充実させていきます。例会のテーマ設定においては、この地区グループ活動や会員交流カードで得られた会員の悩みやニーズ・興味を考慮したいと考えています。

支部例会や全県行事がない月にも必ず1回は支部活動を行い顔の見える活動を推進します。

日頃の活動の成果をお互いに称え、2025年度の到達点を確認する支部アワード「ひむか支部オブザイヤー」を実施します。2026年度総会での表彰を予定しています。

### (2) 地域内での会員の組織率を高めます。

期末会員数40名をめざします。

県の方針である空白地帯解消の第1弾として、組織強化推進協議会との合同例会(知る会拡大バージョンin西都)を年2回開催をしていきます。ひむか支部地域で11月開催予定のフォーラムに向けた会員獲得の機運醸成のため7月と9月に開催の予定です。

また、会歴の浅い会員がゲストを誘いやすい様に知り合う会や交流会を企画します。そこから例会への参加に繋がっていきます。

小グループ活動(地域別、テーマ別、趣味別)を活発にして、身近な経営者との交流を深めましょう。小グループ活動が例会づくりにつながると良い循環になると思います。

毎月1回は同友会の行事に参加しましょう。また、他支部に興味のあるテーマの例会があれば積極的に参加してみたいはいかがでしょうか。

まずは会員が同友会の良さを理解して、能動的に仲間を増やしたいという思いを強めていくことが重要です。

会員はそれぞれ、商工会議所、商工会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等にも所属しています。経営について悩んでいる方に対して、学ぶなら同友会という意識付けをすることで、ゲスト獲得につなげていきます。

### (3) 全国へ、県全体へ学びの視野を広げます

オンラインでの開催が一般になった今、全国行事や共同協行事への参加のハードルはかなり低くなりました。しかし、参加は一部に限られており、会員への拡がりに欠けます。せっかく得た学びを会内で共有できるよう交流会等で報告や意見交換を行っていきます。

ひむか支部が開催地となる第34回みやざき中小企業経営フォーラムの成功に向け、支部一丸体制で取り組みます。地域の若い経営者を巻き込み、全国の経営者から学び合い自社経営につなげていきます。

## 4. 「つなぐ」

横のつながり(会員企業どうし、他団体、産官学金)と縦のつながり(各企業の継続発展、歴史から学ぶこれからの同友会づくり)を築きます。

- (1) 産官学金及び他団体との連携で地域課題への取組みを強化します。金融機関や他団体に対して、まずは継続して行事案内を行っていくとともに、共通の関心事・共通課題を確認し、戦略的關係強化を図り、提携・協業のゴール設定や、目標指標等の協議を推進します。

高鍋信用金庫に対しては支部役員が随時訪問して連携を協議しており、宮崎北高校1年生との地域探求連携事業への参加等の成果もありました。こうした取組みを引き続き継続していく中で、高齢化に伴う諸課題や子どもの社会的貧困等、地域をとりまく共通の関心事や課題と一緒に取り組める信頼関係を築いていきたいと考えます。こうした取組みから「地域課題への取組みが仲間をつなぐ」モデルを構築して参ります。

- (2) 新会員オリエンテーションのプログラムの見直しと、入会直後に行う仕組みをつくりまします。新会員の紹介者、もしくは、支部で定めた会員がメンターとして2年間は新会員をフォローする体制をつくりまします。

座長・室長・グループ長の役割で例会づくりの運営に携わる会員を増やすことで、自主運営ができる体勢を整えていきます。

- (3) 10年後のビジョンを描きます。

これまでの10年を振り返り、ひむか支部が10年後にどうありたいか? 会員企業各々の発展と、地域との関係性を考慮して、10年ビジョンをつくっていきます。各企業や地域の未来について協議する機会を設け、同友会から地域に発信していくことをめざします。

## ■活動計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月
県総会	支部総会	例会	組織強化 推進協議会との 合同例会	知り合う会&暑気 払い	組織強化 推進協議会との 合同例会
10月	11月	12月	1月	2月	3月
例会	フォーラム	知り合う会& 望年会	新春経営者交流会	例会	例会

